

1988年 大会記録

国際

コンコード国際大会 = 男子グレコローマン (5月27~28日、米国・コンコード)

48kg 級 斉藤育造 (和歌山県教委) = 5位、 62kg 級 西口茂樹 (日体大助) = 2位、 68kg 級 大久保康裕 (自衛隊) = 3位、 82kg 級 向井孝博 (自衛隊) = 2位、 90kg 級 森山泰年 (自衛隊) = 2位、 100kg 級 福辺雅彦 (奈良・御所工高教) = 6位

世界ジュニア選手権 (7月11~17日、オーストリア・ウォルフブルグ)

《男子フリースタイル》 46kg 級 松谷憲二 (和歌山・笠田高) = 三失、 50kg 級 松野繁 (群馬・西邑楽高) = 5位、 54kg 級 佐藤貢 (秋田・秋田商) = 3位、 58kg 級 山野誠 (群馬・西邑楽) = 四失、 63kg 級 吉本収 (国士館大) = 二失、 68kg 級 平塚洋充 (日大) = 7位、 74kg 級 中島智彦 (秋田・秋田商高) = 二失、 81kg 級 前田利宏 (岐阜・岐阜西工高) = 10位、 88kg 級 藤田和之 (千葉・八千代松陰高) = 6位、 115kg 級 山地健仁 (青森・八戸工高) = 二失

《男子グレコローマン》 46kg 級 川田征勝 (岐阜・岐阜工高) = 9位、 50kg 級 尾白賢治 (和歌山・和歌山北高) = 二失、 54kg 級 秋元浩一 (群馬・関東学園付高) = 三失、 58kg 級 林雄一 (新潟・巻農高) = 6位、 63kg 級 川島健二 (愛知・星城) = 10位、 68kg 級 塩川和仁 (日体大) = 10位、 74kg 級 杉山直樹 (岐阜・岐阜工) = 二失、 81kg 級 小島達也 (群馬・館林高) = 8位、 88kg 級 矢ヶ崎秀樹 (山梨・峡北高) = 二失、 115kg 級 斎藤丈徳 (宮城・東北電子工高) = 9位

エスポワール・ワールドカップ = 男子フリースタイル (7月14~16日、カナダ・セントジョンズ)

セントジョンズ)

3位 (1勝2敗)

1回戦 日本 [4 - 6] 米国

2回戦 日本 [1 - 9] ソ連

3回戦 日本 [8 - 1] カナダ

《個人順位》 48kg 級 山下忍 (日体大) = 2位、 52kg 級 笹山秀雄 (自衛隊) = 2位、 57kg 級 山下勝 (国士館大) = 2位、 62kg 級 奥山恵二 (日体大) = 2位、 68kg 級 嶺岸武 (日体大) = 2位、 74kg 級 田崎光之 (国士館大) = 3位、 82kg

級 石沢常光(早大) = 3位、 90kg級 高橋和生(日大) = 4位、 100kg級 相ノ山晃(中大) = 3位、 130kg級 鈴木賢一(大東大) = 4位

エスポワール・ワールドカップ=男子グレコローマン(7月27日~8月5日、ギリシャ・アテネ)

3位(2勝3敗)

- 1回戦 日本 [6 - 4] 米国
- 2回戦 日本 [3 - 7] ギリシャ
- 3回戦 日本 [0 - 10] ソ連
- 4回戦 日本 [8 - 2] エジプト
- 5回戦 日本 [2 - 8] キューバ

《個人成績》 48kg級 山本哲也(日体大) = 3位、 52kg級 清水光二(日体大) = 3位、 57kg級 藤岡道三(日体大) = 優勝、 62kg級 福永等(日体大) = 5位、 68kg級 今村浩之(日体大) = 4位、 74kg級 田崎光之(国士舘大) = 6位、 82kg級 永田裕志(日体大) = 6位、 90kg級 仁田昭彦(明大) = 4位、 100kg級 野々村孝(山梨学院大) = 5位、 130kg級 神子沢健一(自衛隊) = 3位

ソウル五輪(9月18日~10月1日)

《男子フリースタイル》 48kg級 小林孝至(ユナイテッドスティール)、 52kg級 佐藤満(日体大助手)、 57kg級 金浜良(日大)、 62kg級 栄和人(奈良県教委)、 68kg級 赤石光生(ユナイテッドスティール)、 74kg級 原喜彦(日体大研)、 82kg級 伊藤敦(日体大研)、 90kg級 太田章(早大教)、 100kg級 本田多聞(自衛隊)、 130kg級 小幡弘之(日大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 斉藤育造(和歌山県教委)、 52kg級 宮原厚次(自衛隊)、 57kg級 中留俊司(京都・南八幡高教)、 62kg級 西口茂樹(日体大助)、 68kg級 大久保康裕(自衛隊)、 74kg級 伊藤広道(自衛隊)、 82kg級 向井孝博(自衛隊)、 90kg級 森山泰年(自衛隊)、 100kg級 福辺雅彦(奈良・御所工高教)、 130kg級 出口一也(国士舘大)

ハパラダ国際大会=男子グレコローマン(12月3~4日、スウェーデン・ハパラダ)

48kg級 大橋正教(山梨学院大職) = 優勝、 57kg級 藤岡道三(日体大) = 2位、 62kg級 西口茂樹(日体大助) = 3位、 68kg級 今村浩之(日体大) = 二失、 74kg級 湯浅邦茂(山梨・緑ヶ丘スポーツ公園) = 4位

アジア選手権 = 男子フリースタイルのみ(12月12~16日、パキスタン・イスラマバ

ード)

48kg級 山下忍(日体大) = 5位、 52kg級 飯田泰次(中大) = 2位、 57kg級 山下勝(国士館大) = 2位、 62kg級 奥山恵二(日体大) = 5位、 68kg級 木村孝弘(早大) = 3位、 74kg級 下玉利太(日大) = 2位、 82kg級 石沢常光(早大) = 4位、 90kg級 浅沼俊幸(国士館大) = 2位、 100kg級 中西学(専大) = 二失、 130kg級 出口一也(国士館大) = 4位

国内

ソウル五輪第2次選考会(3月7~9日、東京・青少年総合センター)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 入江隆(自衛隊)、 52kg級 佐藤満(日体大助手)、 57kg級 金浜良(日大)、 62kg級 栄和人(奈良県教委)、 68kg級 赤石光生(ユナイテッドスティール)、 74kg級 原喜彦(日体大研)、 82kg級 伊藤敦(日体大助手)、 90kg級 赤石明雄(東山梨教育事務所)、 100kg級 本田多聞(自衛隊)、 130kg級 小幡弘之(日大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 斉藤育造(和歌山県教委)、 52kg級 宮原厚次(自衛隊)、 57kg級 中留俊司(京都・南八幡高教)、 62kg級 西口茂樹(日体大)、 68kg級 三宅靖志(東海商船)、 74kg級 伊藤広道(自衛隊)、 82kg級 向井孝博(自衛隊)、 90kg級 森山泰年(自衛隊)、 100kg級 福辺雅彦(奈良・御所工高教)、 130kg級 出口一也(国士大)

全国高校選抜大会(3月29~30日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦(初)、 [2] 鹿児島・鹿児島商工、 [3] 岐阜・岐阜工、 岐阜・岐阜西工

《個人戦優勝者》 46kg級 川田征勝(岐阜・岐阜工)、 50kg級 松野繁(群馬・西邑楽)、 54kg級 阿倍三子郎(東京・京北)、 58kg級 山野誠(群馬・西邑楽)、 63kg級 福田健治(栃木・足利工大付)、 68kg級 赤石光輝(青森・東奥義塾)、 74kg級 中島智彦(秋田・秋田商)、 115kg級 藤田和之(千葉・八千代松陰)

世界ジュニア選手権選考会(4月4~5日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル》 46kg級 松谷憲二(和歌山・笠田高)、 50kg級 松野繁(群馬・西邑楽高)、 54kg級 佐藤貢(秋田・秋田商)、 58kg級 山野誠(群馬・

西邑楽)、 63kg 級 小山田美香(日大)、 68kg 級 平塚洋充(日大)、 74kg 級 中島智彦(秋田・秋田商高)、 81kg 級 前田利宏(岐阜・岐阜西工高)、 88kg 級 藤田和之(千葉・八千代松陰高)、 115kg 級 山地健仁(青森・八戸工高)

《男子グレコローマン》 46kg 級 川田征勝(岐阜・岐阜工高)、 50kg 級 尾白賢治(和歌山・和歌山北高)、 54kg 級 秋元浩一(群馬・関東学園付高)、 58kg 級 林雄一(新潟・巻農高)、 63kg 級 川島健二(愛知・星城)、 68kg 級 塩川和仁(日体大)、 74kg 級 杉山直樹(岐阜・岐阜工)、 81kg 級 小島達也(群馬・館林高)、 88kg 級 矢ヶ崎秀樹(山梨・峡北高)、 115kg 級 斎藤丈徳(宮城・東北電子工高)

西日本学生春季新人戦 = 男子フリースタイル()

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 土屋忠彦(福岡大)、 52kg 級 奥田雅彦(福岡大)、 57kg 級 宮下武士(徳山大)、 62kg 級 嶋幸也(徳山大)、 68kg 級 大島孝雄(福岡大)、 74kg 級 中井直也(同志社大)、 82kg 級 岡田隆志(近大)、 90kg 級 永淵智英(福岡大)、 130kg 級 末雄次(同志社大)

全日本選手権(5月4~5日、東京・代々木競技場第2体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 小林孝至(ユナイテッドスティール)、 52kg 級 佐藤満(日体大助手)、 57kg 級 金浜良(日大)、 62kg 級 栄和人(奈良県教委)、 68kg 級 赤石光生(ユナイテッドスティール)、 74kg 級 原喜彦(日体大研)、 82kg 級 菊地隆(和歌山県教委)、 90kg 級 太田章(早大教)、 100kg 級 本田多聞(自衛隊)、 130kg 級 小幡弘之(日大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 斉藤育造(和歌山県教委)、 52kg 級 宮原厚次(自衛隊)、 57kg 級 中留俊司(京都・南八幡高教)、 62kg 級 西口茂樹(日体大助)、 68kg 級 大久保康裕(自衛隊)、 74kg 級 伊藤広道(自衛隊)、 82kg 級 向井孝博(自衛隊)、 90kg 級 森山泰年(自衛隊)、 100kg 級 福辺雅彦(奈良・御所工高教)、 130kg 級 出口一也(国士館大)

ソウル五輪代表決定プレーオフ(5月12日、東京・代々木競技場第2体育館)

《フリースタイル勝者》 48kg 級 小林孝至(ユナイテッドスティール)、 82kg 級 伊藤敦(日体大助)、 90kg 級 太田章(早大助)

《グレコローマン勝者》 68kg 級 大久保康裕(自衛隊)

東日本学生リーグ戦(5月25~27日、東京・駒沢体育館)

《順位》[1] 日体大(10年連続12度目)、[2] 日大

(A組)[1]日体大、[2]東洋大、[3]専大、[4]早大、[5]大東大、[6]明大

(B組)[1]日大、[2]国士大、[3]中大、[4]山梨学院大、[5]東海大、[6]拓大

西日本学生選手権()

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 池田徹(福岡大)、52kg級 小泉円(同志社大)、57kg級 佐藤誉士(福岡大)、62kg級 中井直也(同志社大)、68kg級 内山栄一(同志社大)、74kg級 岡田孝志(近大)、82kg級 岩本昭宏(福岡大)、90kg級 西澤憲彦(同志社大)、130kg級 横谷豊(徳山大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 坂井保志(同志社大)、52kg級 小泉円(同志社大)、57kg級 下野園公(福岡大)、62kg級 中井直也(同志社大)、68kg級 内山栄一(同志社大)、74kg級 開保則(南九州大)、82kg級 岩本昭宏(福岡大)、90kg級 西澤憲彦(同志社大)、130kg級 末雄次(徳山大)

エスポワール・ワールドカップ代表選考会=男子フリースタイル(6月2~4日、東京・青少年総合センター)

48kg級 山下忍(日体大)、52kg級 笹山秀雄(自衛隊)、57kg級 山下勝(国士舘大)、62kg級 奥山恵二(日体大)、68kg級 嶺岸武(日体大)、74kg級 田崎光之(国士舘大)、82kg級 石沢常光(早大)、90kg級 高橋和生(日大)、100kg級 相ノ山晃(中大)、130kg級 鈴木賢一(大東大)

東日本学生春季新人戦(6月14~16日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 平野孝喜(山梨学院大)、52kg級 藤村和人(日大)、57kg級 山下勝(国士舘大)、62kg級 松元大吉(東洋大)、68kg級 奥山恵二(日体大)、74kg級 寺沢淳(中大)、82kg級 井筒忍(専大)、90kg級 石沢常光(早大)、90kg以上級 鈴木賢一(大東大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 若松正(東洋大)、52kg級 清水光二(日体大)、57kg級 佐藤貢(日体大)、62kg級 福永等(日体大)、68kg級 今村浩之(日体大)、74kg級 伊藤強(早大)、82kg級 石沢常光(早大)、90kg級 仁田昭彦(明大)、90kg以上級 野々村孝(山梨学院大)

西日本学生春季リーグ戦(6月24~26日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《一部》[1]同志社大(3季連続11度目)、[2]福岡大、[3]近大、[4]、[5]、

[6]

全日本社会人選手権（7月2～3日、東京・青少年総合センター）

《団体戦優勝チーム》 実業団 ユナイテッドスチールA、クラブ 山梨クラブ

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 大橋正教（山梨ク）、52kg 級 黒野政康（アイシン精機）、57kg 級 角地山豊（警視庁）、62kg 級 吉田実（自衛隊）、68kg 級 泉保久（自衛隊）、74kg 級 佐川正吉（自衛隊）、82kg 級 和久井始（自衛隊）、90kg 級 赤石明雄（山梨ク）、100kg 級 伊藤勝春（丸藤シートパイル）、130kg 級 大川浩一（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 大橋正教（山梨ク）、52kg 級 中森昭平（警視庁）、57kg 級 西見健吉（自衛隊）、62kg 級 吉田実（自衛隊）、68kg 級 三宅靖志（東海商船）、74kg 級 足立勝司（山梨ク）、82kg 級 東出明（京都・峰山高教）、90kg 級 赤石明雄（山梨ク）、100kg 級 近藤務（自衛隊）、130kg 級 神子沢健一（自衛隊）

インターハイ（8月2～5日、兵庫・三田市立城山公園体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（3年連続3度目）、[2] 鹿児島・鹿児島商工、[3] 岐阜・岐阜工、兵庫・神戸西

《個人戦優勝者》 46kg 級 川田征勝（岐阜・岐阜工）、50kg 級 松野繁（群馬・西邑楽）、54kg 級 坪井勇（茨城・霞ヶ浦）、58kg 級 山野誠（群馬・西邑楽）、63kg 級 川島健二（愛知・星城）、68kg 級 赤石光輝（青森・東奥義塾）、74kg 級 中島智彦（秋田・秋田商）、74kg 以上級 藤田和之（千葉・八千代松陰）

全国高校生グレコローマン選手権（8月19日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》 46kg 級 玉城秀綱（沖縄・嘉手納）、50kg 級 朝比奈巖（茨城・霞ヶ浦）、54kg 級 秋元浩一（群馬・関東学園）、58kg 級 林雄一（新潟・巻農）、63kg 級 神田公一（茨城・霞ヶ浦）、68kg 級 大島辰徳（京都・宇治）、74kg 級 伊藤健一（三重・桑名工）、81kg 級 渡辺英行（山形・山形商）、87kg 級 矢ヶ崎秀樹（山梨・峡北）、115kg 級 星野章（東京・東京実）

全日本学生選手権（8月31～9月3日、大阪・大阪府立体育会館）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 山下忍（日体大）、52kg 級 沖山功（日体大）、57kg 級 佐々木一郎（日体大）、62kg 級 奥山恵二（日体大）、68kg 級

安達巧(日体大)、 74kg 級 下玉利太(日大)、 82kg 級 石沢常光(早大)、 90kg 級 浅沼俊幸(国士舘大)、 100kg 級 中西学(専大)、 130kg 級 出口一也(国士舘大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 山本哲也(日体大)、 52kg 級 清水光二(日体大)、 57kg 級 杉山慶太(日体大)、 62kg 級 竹下敬(日体大)、 68kg 級 山田琢也(専大)、 74kg 級 得本啓次(日体大)、 82kg 級 永田裕志(日体大)、 90kg 級 久米田雅勝(日大)、 100kg 級 中西学(専大)、 130kg 級 出口一也(国士舘大)

西日本学生新人戦()

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 池田徹(福岡大)、 52kg 級 西村敦彦(近大)、 57kg 級 吉村卓勇(同志社大)、 62kg 級 大島孝雄(福岡大)、 68kg 級 新垣義和(南九州大)、 74kg 級 小西博昭(関学大)、 82kg 級 宮崎隆光(桃山学院大)、 90kg 級 岡田隆志(近大)、 130kg 級 安楽純二(同志社大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 池田徹(福岡大)、 52kg 級 西村敦彦(近大)、 57kg 級 山元正志(近大)、 62kg 級 大島孝雄(福岡大)、 68kg 級 中井直也(同志社大)、 74kg 級 奥田博生(同志社大)、 82kg 級 岡田隆志(近大)、 90kg 級 中江雅希(近大)、 130kg 級 安楽純二(同志社大)

全日本学生王座決定戦(10月4～5日、東京・駒沢体育館) = 決勝成績

日体大 [7 - 2] 国士舘大

日体大は 11 年連続 12 度目の優勝

東日本学生グレコローマン選手権

全日本女子選手権(10月5・11日、東京・城西高、後楽園ホール)

《優勝者》 44kg 級 山本美憂(日体ク)、 47kg 級 棗田朋子(吹田市民教室)、 50kg 級 小滝初江(日体ク)、 53kg 級 遠藤美子(東洋大)、 57kg 級 坂本涼子(吹田市民教室)、 61kg 級 星川君枝(ユナイテッドスティール)、 65kg 級 岩間利香(ユナイテッドスティール)、 70kg 級 浦野弥生(日体ク)、 75kg 級 脇恵衣子(全日本女子プロレス練習生)、 75kg 以上級 川戸明子(京都・宇治高)

国体（10月16～19日、京都・弥栄町社会体育館、丹後町民体育館）

《成年フリースタイル優勝者》 48kg 級 喜多龍昭（長崎・島原工高教）、 52kg 級 坂木勇夫（長崎・専大）、 57kg 級 佐々木一郎（茨城・日体大）、 62kg 級 栄和人（奈良・県教委）、 68kg 級 嶺岸武（茨城・日体大）、 74kg 級 高橋信明（青森・県協会）、 82kg 級 菊地隆（和歌山・県教育庁）、 90kg 級 赤石明雄（山梨・東山教育事務所）、 100kg 級 中西学（京都・専大）、 130kg 級 奈良英則（東京・警視庁）

《成年グレコローマン優勝者》 48kg 級 蝦名康一（埼玉・自衛隊）、 52kg 級 中森昭平（東京・警視庁）、 57kg 級 黒飛健（埼玉・自衛隊）、 62kg 級 吉田健（京都・山城運動公園）、 68kg 級 山田琢也（京都・専大）、 74kg 級 湯浅邦茂（山梨・県立ろう学教）、 82kg 級 屋比久保（沖縄・北中条高教）、 90kg 級 東出徹（奈良・高取高教）、 100kg 級 近藤努（埼玉・自衛隊）、 130kg 級 出口一也（和歌山・国士館大）

《少年フリースタイル優勝者》 46kg 級 川田征勝（埼玉・埼玉栄）、 50kg 級 松野繁（群馬・西邑楽）、 54kg 級 阿部三子郎（東京・京北）、 58kg 級 吉越啓城（茨城・霞ヶ浦）、 63kg 級 川島健二（愛知・星城）、 68kg 級 鈴木修（茨城・土浦日大）、 74kg 級 児玉健（茨城・霞ヶ浦）、 81kg 級 中島智彦（秋田・秋田商）、 88kg 級 藤田和之（千葉・八千代松陰）、 115kg 級 星野章（東京・東京実）

《少年グレコローマン優勝者》 46kg 級 河合享（山形・山形南）、 50kg 級 尾白賢治（和歌山・和歌山北）、 54kg 級 秋元浩一（群馬・関東学園）、 58kg 級 小笠原峰彦（青森・八戸工大一）、 63kg 級 福田健治（栃木・足利工大付）、 68kg 級 大島辰徳（京都・宇治）、 74kg 級 伊藤健一（三重・桑名工）、 81kg 級 石庭新五（宮崎・都城南）、 88kg 級 小原康緒（埼玉・川口）、 115kg 級 山地健二（青森・八戸工）

東日本学生秋季新人戦（11月14～16日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 小松崎智久（東農大）、 52kg 級 水野将嘉（早大）、 57kg 級 関昌弘（早大）、 62kg 級 鈴木信行（日体大）、 68kg 級 太田拓弥（日体大）、 74kg 級 伊藤強（早大）、 82kg 級 金永峰（日大）、 90kg 級 仁田昭彦（明大）、 90kg 以上級 高橋則行（東洋大）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 加藤欣史（東海大）、 52kg 級 坂村智幸（東農大）、 57kg 級 花原大介（日体大）、 62kg 級 松田昌明（国士館大）、 68kg

級 福永等(日体大)、 74kg 級 石川宏明(日大)、 82kg 級 永田裕志(日体大)、
90kg 級 石沢常光(早大)、 90kg 以上級 鈴木賢一(大東大)

西日本学生秋季リーグ戦(11月24~26日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1]同志社大(4季連続12度目)、[2]福岡大、[3]徳山大、[4]、[5]、
[6]

全国社会人オープン(11月19~29日、神奈川・横浜市消防訓練センター)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 福永明彦(自衛隊)、 52kg 級 大橋正教
(山梨クラブ)、 57kg 級 角地山豊(警視庁)、 62kg 級 吉田実(自衛隊)、 68kg
級 宮本公裕(福井県協会)、 74kg 級 有延伸一(国土舘クラブ)、 82kg 級 梅木
稔(朝霞消防署)、 90kg 級 平山宣伸(レスリング岡山)、 100kg 級 篠木英治(三
洋電気)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 福永明彦(自衛隊)、 52kg 級 大橋正教
(山梨クラブ)、 57kg 級 西見健吉(自衛隊)、 62kg 級 安楽清一(自衛隊)、 68kg
級 大城利幸(自衛隊)、 74kg 級 有延伸一(国土舘クラブ)、 82kg 級 三宅靖志
(東海商船)、 90kg 級 平山宣伸(レスリング岡山)、 100kg 級 篠木英治(三洋電
気)

全日本大学選手権(12月7~8日、東京・駒沢体育舘)

《優勝者》 48kg 級 山下忍(日体大)、 52kg 級 坂本勇(専大)、 57kg 級 金
浜良(日大)、 62kg 級 奥山恵二(日体大)、 68kg 級 安達巧(日体大)、 74kg
級 下玉利太(日大)、 82kg 級 石沢常光(早大)、 90kg 級 浅沼俊幸(国土舘大)、
100kg 級 中西学(専大)、 130kg 級 間山泰範(日体大)

《大学対抗得点》[1]日体大(4年連続11度目)、[2]専大、[3]日大

全日本女子オープン選手権(1989年3月21日、東京・青少年総合センター)

《優勝者》 44kg 級 山本美憂(日体ク)、 48kg 級 棗田朋子(吹田市民教室)、
50kg 級 遠藤美子(東洋大)、 53kg 級 東陽子(吹田市民教室)、 57kg 級 坂本涼
子(吹田市民教室)、 61kg 級 星川君枝(ユナイテッドスティール)、 65kg 級 飯
島晶子(木口道場)、 70kg 級 浦野弥生(日体大)、 75kg 級 船越光子(壬生ちび
っ子教室)、 75kg 以上級 = 出場なし